

平成24年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業
- (5) 共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

(1) 第28回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5年、6年生を対象とする陸上競技大会の都道府県代表を決定する予選大会と、決勝大会を後援しました。

昭和60年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、毎年16万人を超える選手、指導者が参加しています。過去の本大会出場者の中から、末續慎吾選手（第8回大会出場）、高平慎士選手（第12回大会出場）が、平成20年北京オリンピック男子4×100mリレーで銅メダルを獲得するなど、国際舞台で活躍する選手を多く輩出しています。

また、平成24年のロンドンオリンピックでは、陸上競技日本代表選手46名の内、11名が小学生時代に本大会に出場し、本大会は、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 ① 予選大会 平成24年6月～7月
② 決勝大会 平成24年8月24日（金）～25日（土）

【場所】 ① 予選大会 全国47都道府県の競技場
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約165,000人（選手、指導者、関係者）

【内容】 47都道府県の予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。

決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、80m

ハードル走、走幅跳、走高跳、ソフトボール投げ、4×100m リレーなどが実施され、その模様はNHK 教育テレビにて全国録画放送されました。

【事業費】 106,577,819 円

(2) 第15回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

全国の小学5年、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成10年度からスタートしました。

本大会の出場者で、第1回大会出場者の佐藤悠基選手が長距離の代表として、平成24年開催されたロンドンオリンピックに出場しました。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：文部科学省他

【実施日】 平成25年3月16日(土)～17日(日)

【場所】 池田市民文化会館、万博記念公園内特設コース(大阪府吹田市)

【参加者数】 約1,000人

【内容】 ① 池田市民文化会館において開講式、研修会を開催

講師：公益財団法人日本陸上競技連盟 普及委員

井筒 紫乃 氏、大畑 好美 氏

ゲスト：日清食品グループ陸上競技部

白水 昭興 監督

諏訪 利成 選手(アテネオリンピック 男子マラソン代表)

佐藤 悠基 選手(ロンドンオリンピック 男子長距離代表)

研修内容：・小学生アスリートの練習方法について

・小学生アスリートの食事と栄養について

・さまざまな運動をすることの大切さについて

② 万博記念公園特設コースにおいて本大会を開催

クロスカントリーリレー(1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー)

友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,754,541 円

(3) 全国小学生陸上競技交流大会優秀選手研修会の実施

将来の有望選手としての意識・意欲づけと、その指導者に発育発達に応じた一貫指導の重要性を理解してもらうため、第28回全国小学生陸上競技交流大会で優秀な成績をおさめた選手を対象に研修会を実施しました。

【実施日】 平成24年10月27日(土)～28日(日)

【場所】 横浜・日産スタジアム、横浜市スポーツ医科学センター 他

【参加者数】 選手・指導者 計32名

【事業費】 第28回全国小学生陸上競技大会事業費に含む

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」贈呈

子どもたちの心身の健全な育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生

の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 平成24年8月25日（土）

【事業費】 第28回全国小学生陸上競技大会事業費を含む

3. スポーツ全般におけるジュニア育成の後援事業

本事業は、当財団の新規取組み事業として、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援し、もって青少年の心身の健全な育成を図りたいという趣旨で行います。

平成24年度は次年度からの本格活動のための準備期間として活動し、平成25年2月に内閣府に公益目的事業の変更認定申請を行い、公益認定等委員会の答申を経て、3月27日、内閣府より認定をいただきました。

具体的な後援事業として、平成25年度より公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムに後援します。国内開催の国際大会を含む、全国大会17大会と、全国大会予選を含む地方大会91大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニア合宿、国内外の遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という財団創設者 安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の心身の健全な育成を目的に、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

また、平成22年5月、長野県小諸市にわが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立し、子どもたちを身近な自然に案内する指導者を育てる「上級指導者」の養成と指導カリキュラムの研究・開発を行っています。

1. 自然体験活動支援事業「第11回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に実施支援金各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰するとともに、各団体のユニークな活動を発表し、他団体の活動の参考としていただくことで、自然体験活動の活性化を図ります。

なお、今回助成した50団体の活動には、子どもたちと指導者をあわせて延べ約15,000人が参加しました。

【後援】 文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会、NPO法人自然体験活動推進協議会

【表彰団体】

◆ 学校部門

文部科学大臣奨励賞（副賞：賞金100万円）

団体名： 若狭町立岬小学校・三方中学校岬分校（福井県）

企画名： PRIDE OF MISAKI（岬の誇り）

優秀賞（副賞：賞金 50 万円）

団体名：飯島町立飯島中学校（長野県）

企画名：1組の、1組による、1組のための「燻草（臭）活動」
～炭焼き体験を通して～

◆ 一般部門

安藤百福賞（副賞：賞金 100 万円）

団体名：明石のはらくらぶ（兵庫県）

企画名：～現代にトム・ソーヤーを甦らせるプロジェクト～
「未来のリーダー集まれ！放課後の自然たんけん隊」

優秀賞（副賞：賞金 50 万円）

団体名：学校法人滝の坊学園 三好桃山幼稚園（愛知県）

企画名：忍者 CAMP 2012

◆ 特別賞・奨励賞

● 推奨モデル特別賞（副賞：賞金 20 万円）

自然体験活動のプランニングや指導方法、計画を実施に移す過程が、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈。

団体名：（独）国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家（新潟県）

企画名：YES I CAN! IN 信濃川 2012 ～この夏 見つける 輝く自分～
日本一の信濃川 367km のチャレンジ

● トム・ソーヤー奨励賞

優秀賞に及ばないものの、更なる発展が期待できる企画に贈呈。

① 団体名：上美生学童クラブ（北海道）

企画名：MISSION POSSIBLE ～おさかな大作戦～

② 団体名：伊那市立東春近小学校 5 年（長野県）

企画名：「われら、きらり探検隊」

③ 団体名：播磨マリクルー（兵庫県）

企画名：「出前授業&底引き網漁体験学習／

高砂海浜公園『アオサ』回収&地曳き網漁体験学習」

【表彰式】 開催日：平成 25 年 1 月 26 日（土） 安藤百福発明記念館 5 階ホール

来賓：山脇 良雄 氏（文部科学省 大臣官房 審議官）

鯉渕 信也 氏（横浜市 こども青少年局長）

講演会：竹内 洋岳 氏（プロ登山家）

テーマ「私の登山人生～体験を通じて得たもの～」

【事業費】 16,682,893 円

2. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週 5 日制が施行された平成 14 年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行います。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【U R L】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 8,277,156 円

3. 自然体験活動指導者養成事業

安藤百福センターを拠点に、自然体験活動の指導者を育てる「上級指導者」養成をはじめ、自然体験活動の底辺の拡大と更なる活性化を図る中心的な役割を果たしています。

【事業内容】

- ① 自然体験活動における上級指導者養成事業
- ② 自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業
- ③ 大学、大学院、専門学校等の自然・野外・観光・農業に係わる講義演習
- ④ 自然体験活動に係わる企業研修をはじめ、各種研修及び研究事業 他
- ⑤ 指導カリキュラムの研究・開発、紀要の発刊

【平成 24 年度 主な事業】

- ① 上級指導者養成のための研修会の共催
NPO 法人自然体験活動推進協議会や公益社団法人日本環境教育フォーラム、公益社団法人日本山岳ガイド協会などが養成、認定する指導者研修を支援しました。
- ② 第 2 回浅間大学院生セミナーの開催
開催日 : 平成 24 年 9 月 28 日 (金) ~ 30 日 (日)
参加者 : 教員・学生あわせて 19 名
内 容 : 幅広い自然教育や環境教育の専門家を目指す学生たちの交流や、各大学の講義内容を情報交換することで、相互に発展を図ることを目的に、各大学教員による講義、大学院生による研究発表、ワークショップなどを実施しました。
また、米国ワイオミング州の自然学校「ティートン サイエンススクール」に、最優秀大学院生 2 名を派遣することを決定しました。
- ③ 青少年体験活動奨励制度「チャレンジ アワード」への協力
文部科学省が進める「チャレンジ アワード」は、青少年の体験活動の機会を促進し、自然や社会、仲間とのつながりを築くことを目的に、「自然体験活動」、「運動・スポーツ」、「ボランティア活動」、「科学・文化・芸術活動」の 4 つの分野すべてに取り組む大学生に対し、第三者が活動の達成度を評価した上で、修了証を発行する制度です。諸外国の実例を参考に、平成 25 年度から本格導入される予定です。
安藤百福センターでは、「自然体験活動」分野において大学生を受け入れ、読図や安全管理技術などの講義と、スノーシューによる雪山登山、野外調理等の実習を実施しました。
開催日 : 第 1 回 平成 25 年 1 月 12 日 (土) ~ 14 日 (月) 2 泊 3 日 (3 名)
第 2 回 平成 25 年 2 月 9 日 (土) ~ 11 日 (月) 2 泊 3 日 (5 名)
- ④ 「アウトドアフォーラム 2012」の後援
開催日 : 平成 24 年 6 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日)
後 援 : 観光庁、長野県、長野県教育委員会、小諸市 他
テーマ : 「アウトドアズと自然体験活動のトレンドを考察する」
講 演 : ・「スポーツツーリズムとアウトドアアクティビティ」
秋本 幸佑 氏 (観光庁スポーツ観光推進室 スポーツ観光政策官)

- ・「青少年の自然体験活動の現況」
藤原 一成 氏（文部科学省スポーツ・青少年局 青少年教育官）
- ・「森林セラピーと森林保護活動」
住友 和弘 氏（旭川医科大学第一内科医師）
- ・「変わりゆく穂高岳涸沢のトレンド」
山口 孝 氏（株式会社涸沢ヒュッテ 代表取締役社長）

内 容 : アウトドアズと自然体験活動の普及・振興を教育と産業、さらには地域観光の活性化という視点と、産官学の連携を視野に、各界から多彩な講師を招いてフォーラムを開催し、103名が参加しました。

⑤ 野山を楽しむ自然塾の主催（年4回）

身近な自然に親しむことを目的に、「トレイルの魅力と歩き方の基礎を学ぶ」（6月）、「涼しく学ぶ残暑の楽しい過ごし方」（8月）、「親子で火起こし」（12月）、「子どもも大人も楽しめるスノーシューハイク」（2月）を開催しました。

⑥ ツリーハウス アート プロジェクト

安藤百福センターの森では、国内外で活躍中の著名なデザイナーや建築家らのデザインしたツリーハウスを展示し、アートとして楽しんでいただくため、「ツリーハウス アートプロジェクト」を推進しています。自然体験に興味がない人でも、「アート」をフックにして、豊かな自然にふれあってもらうことが目的です。最終的に10棟のツリーハウスを建築する計画ですが、平成24年度は1棟竣工し、現在2棟が森の中に溶け込んでいます。

【事業費】 107,359,313円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第17回安藤百福賞」表彰事業の主催

「食創会」は、平成8年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という財団創設者 安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞や優秀賞のほか、平成18年度より新設された発明発見奨励賞は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

【後 援】 文部科学省

【表 彰 者】

◇ 大賞（副賞：賞金1,000万円）

該当者なし

◇ 優秀賞（副賞：賞金各200万円）

●二ノ宮 裕三 氏（九州大学大学院歯学研究院 主幹教授）

「味覚の受容・伝達・修飾の分子神経メカニズムの研究」

●遠藤 徳雄 氏（キリン株式会社 R&D 本部 パッケージング技術研究所 主任研究員）

「泡がシャリッと冷たい、新食感のフローズン〈生〉ビールの開発」

●齋藤 寿広 氏（独立行政法人農研機構 果樹研究所 上席研究員）

壽 和夫 氏（元独立行政法人農研機構 果樹研究所 リンゴ研究部長）

澤村 豊 氏（独立行政法人農研機構 果樹研究所 主任研究員）

「軽く加熱するだけで簡単に渋皮が剥ける画期的なニホングリ品種『ぼろたん』の育成」

◇ 発明発見奨励賞（副賞：賞金各 100 万円）

●中條 均紀 氏（ホリカフーズ株式会社 常務取締役）

「低アレルギー及び低たんぱく無菌米飯の製造方法確立」

●田中 一郎 氏（ニュテックス株式会社 専務取締役）

「市民参加型による産学官連携で地域にこだわったビートリキュールの開発」

●藤田 清貴 氏（鹿児島大学農学部 助教）

「植物糖タンパク質糖鎖が有するビフィズス菌増殖促進効果の発見」

【表彰式・記念講演会】

開 催 日：平成 25 年 3 月 8 日（金） ホテルニューオータニ（東京）

来 賓：河村 建夫 氏（衆議院議員）

針原 寿朗 氏（農林水産省 食料産業局長）

記念講演会：＜特別講演＞ 荒井 寿光 氏（元特許庁長官、食創会副会長）

「安藤百福翁に学ぶ知財戦略と日本の課題」

＜受賞講演＞ 優秀賞受賞者 3 氏

【事業費】 23,597,757 円

■公 4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という財団創設者 安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブ シンキング”」を育み、もって青少年の心身の健全な育成に寄与しています。

1. インスタントラーメン発明記念館（以下「池田記念館」）の運営

池田記念館は、平成 11 年 11 月にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館し、平成 16 年 11 月には、展示内容と体験工房を充実させる拡張新築を行いました。

近年は、総合学習や修学旅行など学校教育の場として利用され、全国各地より約 600 校 27,000 人の小中学生や高校生が来館し、体験型食育ミュージアムとして高く評価いただいております。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,284 ㎡

延床面積：2,920 ㎡

【来館者数】平成 24 年度来館者数 608,669 人（累計来館者数 4,508,876 人）

【体験者数】チキンラーメンファクトリー 43,613 人（累計体験者数 460,377 人）

マイカップヌードルファクトリー 361,051 食（累計体験食数 2,187,116 食）

【事業費】120,550,800 円

2. 安藤百福発明記念館（以下「横浜記念館」）の運営

横浜記念館は、平成23年9月、横浜市みなとみらいに開館しました。「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想、創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。

発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなど、子どもたちに伝えていきます。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港2丁目3番4号

敷地面積：4,000 m²

延床面積：9,882 m²

【来館者数】 平成24年度来館者数 1,004,393人（累計来館者数 1,617,411人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 99,329人（累計体験者数 153,086人）

マイカップヌードルファクトリー 727,352食（累計体験食数 1,122,728食）

カップヌードルパーク 114,262人（累計体験者数 192,426人）

NOODLES BAZAAR ワールド麺ロード

402,947食（累計体験食数 707,682食）

【事業費】 554,803,286円

なお、発明記念館運営事業においては、両記念館の一部を食育体験コーナーとして賃貸した施設賃貸料と、池田記念館における食育体験コーナーの予約、案内および受付業務を受託する業務受託料、横浜記念館における入館料（ただし、高校生以下は無料）による収益を、事業遂行のための財源の一部として充当しました。

■共通. 青少年の健全育成を目的とする支援事業

1. 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013」（主催：文部科学省他）の支援

「次世代に繋ぐ新たなスポーツ環境の創出に向けて～地域におけるスポーツの推進～」をテーマに開催された「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013－人・スポーツ・未来－」（主催：文部科学省他）に協賛しました。

【開催日】 平成25年1月25日（金） 宮崎観光ホテル（宮崎県）

【協賛金】 500,000円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸します。また、池田記念館においては、物販業務を受託しています。

なお、本事業による収益については、公益目的事業を行うために充当します。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 292 m²（館全体の延床面積に占める割合：約10%）

② 横浜記念館 115 m²（館全体の延床面積に占める割合：約1%）

【事業費】 30,412,669円

以上